

たてもものクイズ

○○○○ (ヒント：人名) は、この建物の2階に住み、東京朝日新聞社校正部に勤めながら1910年には歌集「一握の砂」を出版しました。1階の理髪店はとてハイカラな店構えになっていました。

○に文字を入れてみよう



はみだしコラム

理髪店の店先にある赤と白の縞模様の看板は、いったいどんな意味があるのかな。現在も赤と青と白の縞模様がぐるぐる回る棒状の看板をよく見かけますね。この看板、西洋のまねをして使われるようになったのですが、商売とはなんの関係もないのです。赤は動脈、青は静脈、白は包帯を表しているのです。ヨーロッパでは、流血とって、体に何方所か傷をつけ悪い血を抜く健康法が信じられていました。おもに浴場でおこなわれ、その場に居合わせ知識を身につけたのが、客のひげをそり、散髪をする理容師でした。理容師の、血抜きの際に患者に持たせる棒に包帯を巻き、看板としたのがはじまりです。



明治村錦絵れきし探偵団



本郷真之床
東京 明治末年頃



啄木コース



この家は東京都文京区本郷にあった新井家経営の理髪店でした。さあ、明治の髪型について調べてみよう。



錦絵とは、多くの色を使った浮世絵版画のことで、江戸時代中期に誕生しました。明治時代に入ると使われる色の種類も更に豊富になり、テーマもより話題性のあるものが選ばれるようになって行きました。

平成19年度
文化庁芸術拠点
形成事業



「横浜亜三番商館繁栄之図」歌川広重(三代) 画

Q1

錦絵の中には、いろいろな髪型の人たちを見つけることができますね。さて、当時流行した次の歌にも髪型のことが書かれていますよ。

「ザンギリ頭をたたいてみると文明開化の音がする」

「鋸髪頭をたたいてみると王政復古の音がする」

「半髪頭をたたいてみると因循姑息の音がする」

では、半髪頭の人は何人でしょうか？

①  錦絵中央のチョンマゲ頭の男性

②  錦絵左端の短髪の男性

③  錦絵右端の着物姿の女性

ヒント 王政復古とは、江戸幕府をたおして天皇を中心とする政治にもどした1867年の出来事です。因循姑息とは、古い習慣にしたがって決断ができず、ぐずぐずしている様子をいいます。



Q2

1871年8月9日に散髪脱刀令が公布されました。つまり、チョンマゲを切ることも、刀を持たないことも自由にしてよいという法令です。さて、チョンマゲが東京から消えたのはいつ頃だったのでしょうか。

① 1871年の散髪脱刀令が公布された直後

② 1890年の第1回帝国議会が開かれたころ

③ 1906年、石川啄木がふるさと岩手県の尋常高等小学校の代用教員となったころ。

Q3

本郷喜之床は明治末の理髪店です。この頃の理髪料金(東京における平均料金)は、いくらぐらいだったのでしょうか。

① 25銭 ② 15銭 ③ 10銭

ヒント 1871年の新貨条例で、1円は100銭、1銭は10厘と定められました。明治末の1909年頃のたいやき1個が1銭、牛乳が3銭9厘でした。

